



琉球病院 Monthly



独立行政法人
国立病院機構 琉球病院
National Hospital Organization RYUKYU Hospital

Vol.70
2018. October

発行者 琉球病院事務部長
秋好 輝雪

基本理念 この病院で最も大切なひとは医療を受ける人である

市民公開講座「心の健康セミナー in 沖縄」 —森田療法と生活の発見会について—

今回は、11月11日(日)14時~16時に新都心にある「那覇市民協働プラザ」において開催される心の健康セミナー in 沖縄の紹介をします。

皆さんは、森田療法をご存知でしょうか。精神医療の関係者をご存知の方も多いと思います。森田療法は、1919年、東京慈恵会医科大学の初代精神科教授である森田正馬先生によって創始された、神経症に対する独自の精神療法です。元来は強迫性障害、社交恐怖や広場恐怖などの恐怖症性不安障害、パニック障害、全般性不安障害、心気障害などの神経症性障害が治療の対象でした。今では、神経症に限らず遷延しうつ病に適用されて効果を挙げている他、慢性疼痛、アトピー性皮膚炎など種々の心身症、癌の患者さんや一般の人々のメンタルヘルスにも森田療法が応用されています。さらに海外でも森田療法の普及が進んで Morita Therapy の名は世界に認知されており、中国、カナダ、ロシア、オーストラリア、アメリカ、イギリス等を中心に多くの国で使用されて成果を上げています。日本森田療法学会は毎年開催され、今年で36回目となります。また、数年に1度国際学会が開催されており、今年是中国で10回目が開催されました。

ところで、昨年「マインドフルネス」が、あらゆるところで注目されていますが、それと森田療法の「あるがまま」については重なる面が多く、活発に議論されているところです。

その森田療法を活かし、神経症等の陶冶に向けて取り組む自助グループとして生活の発見会があります。生活の発見会は、神経症等に悩む人々が集い、「(1) 悩みや回復体験の共有、(2) 森田理論の学習、(3) 実生活で実践、(4) 自分を見つめ直す」これら4つのサイクルを通し、回復の実感体験を後押しするNPOです。沖縄にも2つ集談会があり、熱心に活動を続けています。

その生活の発見会九州支部と九州地区森田療法セミナー事務局が主催で、沖縄において心の健康セミナーを開催することとなりました。心の健康セミナーは、毎年各県を回って開催されており、今回初めて沖縄での開催となります。

講演テーマは「森田療法によるうつ・不安への対処について」で、九州大学大学院人間環境学研究院教授の黒木俊秀先生と、私が講師を務めます。黒木先生は、長年森田療法に関わり、九州で中心を担っている先生です。

市民公開講座ではありますが、この機会に森田療法について知りたいと思われる方は医療関係者でも是非参加されてください。また、周りで神経症や遷延しうつ病など森田療法が適応と思われる方がいらっしゃいましたら、是非案内いただけたらと思います。

トピックス

行事・出来ごと

- 病棟等建替 進捗状況 本体工事：新病棟(第1期工事)完成・・・平成27年7月
- 整備の動き 雨水配水管管替工事 完成・・・平成29年2月
- 新病棟(第2期工事) 完成予定・・・平成30年10月

教育・研修

- アルコール関連問題研修会 日時：平成30年10月12日(金)8:50~17:00
- 場所：琉球病院研修棟会議室
- 対象：保健師・看護師・ソーシャルワーカー等

● 地域医療連携室だより

当院には現在、「動く重症心身障がい病棟」がございます。H30年度7月24日、新しく建てかえた新病棟への引っ越しを無事に終えることができました。新病棟開設に伴い、入所・ショートステイ用をあわせて10床増床し、90床でのスタートとなります。これまでに入所以外にも多数のショートステイのご相談をお受けしておりましたが、なかなか受け入れをすることができない状況が続いておりました。引っ越し後、現在入所中の患者様が新病棟での生活が落ち着き次第、新規の患者様をご案内していく予定です。是非、ご相談いただけたらと思います。「動く重症心身障がい病棟」には担当の精神保健福祉士がおりますので、何か疑問な点やご不明な点がございましたら、お気軽に「地域医療連携室」まで、お気軽にお声かけ下さい。

院長

福治康秀(ふくじ やすひで)
1964年生まれ、那覇市出身、首里高校卒。
1993年琉球大学医学部卒、琉球大学医学部精神神経科入局。
95年那覇市立病院精神科、96年琉球大学精神神経科、2009年琉球病院精神科部長、2010年副院長を経て2014年琉球病院長に就任。
日本病院・地域精神医学会理事。



診療科

- 一般精神科
- こども心療科
- 物忘れ外来
- アルコール依存症等外来

病床数 416床

- 精神科病棟 151床
- 認知症 56床
- アルコール 54床
- 児童思春期 ユニット 4床
- 重症心身障がい 90床
- 医療観察法 37床



●アクセス
路線バス/那覇B5(下り)または名護B5(上り)より沖縄バス「77番名護東線」浜田バス停下車徒歩3分
自動車/那覇市から40分
沖縄自動車道金武インターから名護向け5分

NHO PRESS~国立病院機構通信~について

琉球病院は、国立病院機構(NHO: National Hospital Organization)という143の病院からなる国内最大級の病院ネットワークの病院です。

国立病院機構(NHO)という病院ネットワークが、どのようなグループでどのような活動をしているのかを紹介する「NHO PRESS~国立病院機構通信~」を発行しています。外来ロビーに設置していますので、ぜひご覧になってください。

なお、ホームページに最新号と過去のものを掲載していますので、そちらもぜひご覧になってください。「NHO PRESS」で検索してください。

お問い合わせ時間
8:30~17:15(土・日・祝日以外)
TEL: 098-968-2133(代)
内線: 231・234
地域医療連携室(直通)
TEL: 098-968-3550
FAX: 098-968-7370

治療抵抗性精神疾患への医療



クロザピリンの治療状況

平成22年から治療抵抗性統合失調症の患者様に対してクロザピリン(CLZ)治療を開始し、全症例は245例になりました。平成30年8月のCLZ導入は2例で、いずれも他の病院からのご紹介の患者様(入院中2例、通院中0例)でした。CLZ治療前には暴力行為や多飲水などの問題行動のために隔離が必要な患者様も多くいらっしゃいましたが、CLZ継続例では問題行動も少なくなり、隔離は解除できています。週に3回の専門外来も行っていますので、患者様のご紹介をお願いいたします。

m-ECT (修正型電気けいれん療法) の治療状況

当院では、m-ECT (修正型電気けいれん療法)による治療を行っています。平成30年8月の治療実績はありませんでした。

こども心療科

9月22日(土)に、県から委託を受けている「子どもの心の診療ネットワーク事業」の一環で、日本における発達障害支援の第一人者でトラウマ治療にも精力的に取り組まれている杉山登志郎先生をお招きし、「複雑性PTSDへの簡易トラウマ処理」をテーマにご講演頂きました。定員を大幅に超える申し込みがあり、関心の高さが窺えました。

講演では、「発達性トラウマ障害」「複雑性PTSD」の視点をご紹介頂きながら、繰り返されるストレスフルな体験が脳やパーソナリティにどのような影響を与えるか。外来という限られた時間枠の中でどのようにトラウマ治療を行うかについて、先生の臨床経験を交えながら解説頂きました。

今後子ども心療科では、子どもの健やかな心の育ちを支えるための支援体制構築に向けて、様々なテーマの研修を企画していきたいと思っております。

認知症医療

9月10日に病棟レクとして【敬老会&トッシー祝】を行いました。職員によるかぎやで風をはじめ、多くの催し物がありました。作業療法活動で作成したブルーチェアやお菓子、コーヒー・紅茶を堪能しながら楽しい時間を過ごすことができました。

今回は、患者様のご家族も参加していただき、普段の病棟での様子を見ていただきました。敬老会の終了後に家族会を持ち、気になることや心配なことなどを語り合いました。ご家族からも家族会は好評であり、今後も病棟としては継続して開催していく予定であります。

今後も病棟レクの計画を行い、楽しく安全に参加ができるよう取り組んでいきたいと思っております。

重症心身障がい医療

9月8日(土)、当院にて第106回発達障害児者に関するミニレクチャーと事例検討会を開催しました。今回は午前の講義で「重症心身障がい者の医療」をテーマに当院医師、遠藤先生が講演を行い、また、午後の講義では「強度行動障害と医療」をテーマに当院医師、島袋先生が講演を行いました。遠藤先生からは、重症心身障害における制度的な歴史、医療的ケアや治療において摂食や栄養、排せつ、薬物療法、呼吸管理、てんかん管理等の説明、今後の重症心身障害医療を示唆する内容でした。また、島袋先生からは、こども精神科の治療と共にいわゆる動く重症心身障害病棟や強度行動障害の説明、行動療法や構造化による支援、薬物療法、医療と福祉との連携について説明され、学校や施設、行政機関等31名の皆さんが聴講されました。本研修会は地域支援の一つとして、平成7年より定期的実施しております。発達障害について学び理解を深める場を提供すると共に、地域とのネットワークづくりにつながればと考えます。



アルコール・薬物依存医療

平成25年5月27日、アルコール依存症の新しい治療薬「レグテクト」が発売となりました。レグテクトは、アルコール依存症の方の強い「飲酒欲求」を直接和らげてくれる作用があります。当院では30年8月末現在、外来通院の患者様87名、入院中の患者様21名の方が服用されています。内服している方は「飲酒欲求が軽減した」と話され、再飲酒の抑制につながっています。また、当院の外来での調査では、レグテクト内服を継続している患者様の方が、治療継続率が高いという結果も出ております。患者様へは、適宜導入を勧めています。断酒が困難な方は、ぜひ外来を受診し相談して下さい。

包括的地域精神医療

平成30年8月の訪問看護利用者件数は、777件のご利用をいただき新規の申し込みが8件ありました。当院の訪問看護の活動範囲は広域で国頭、本部と北部地域全域及び中部は浦添市までを訪問範囲としています。地域で安定した生活が継続できるために、病状はもちろんです。地域や家庭でより充実した生活を目指すよう、日々訪問看護を展開しています。

9月は、敬老の日や十五夜などがあり公民館での行事に参加し、ご馳走を頂いたことの楽しかった報告や、屋敷の安全祈願で「さん」をさしてある家庭と地域によっての風習の違いや季節の変化を感じました。

臨床研究部活動状況 『第26回日本精神科救急学会学術総会のお知らせ』

2018年10月11日・10月12日に沖縄県那覇市において第26回日本精神科救急学会学術総会が行われます(大会長:小渡敬院長(平和病院)、副大会長:福治康秀院長(琉球病院)、実行委員長:平安明理事長(平安病院))。「多様化する社会と精神科救急 ~チャンブルー文化の地で考えよう~」をテーマに、小渡敬平和病院院長の特別公演をはじめ、6つのシンポジウム、災害支援・精神科看護・精神科救急システム・うつ病・自殺関連など18領域からの一般演題が予定されており、緊急企画として「西日本豪雨災害に関する報告会」が企画されています。多くの方のご参加をお待ちしております。



会期 2018年 10月11日(木)・12日(金)

会場 ダブルツリー by ヒルトン那覇首里城
〒903-8601 沖縄県那覇市首里山川町1丁目132-1